

始

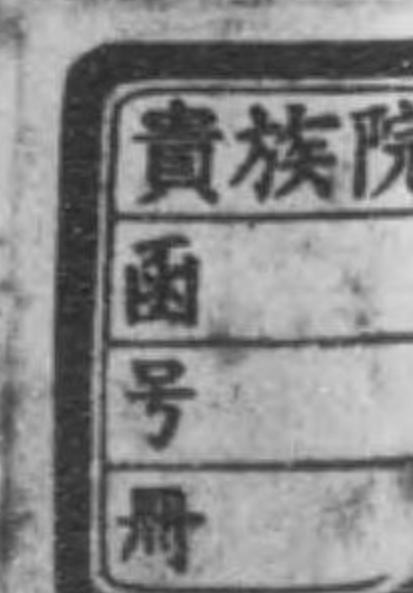


12950

滿洲に於ける言論機關の現勢



滿鐵調查資料第六十一編



南滿洲鐵道株式會社
庶務部調査課

貴族院
函
号
冊

145
171



89W08976

凡例

一、題して『満洲に於ける言論機關の現勢』と謂ふも、單なる新聞及び通信社の概況に關する各牒報機關からの報告の羅列に過ぎない。従つて本稿では言論機關に對する論評を避け、専ら事實の記錄に止めた。これ本稿の目的が調査擔當者のメモラムダムたるに在るからである。

一、本稿の編述者は課員大塚令三。

大正十五年十一月

庶務部調査課

滿洲に於ける言論機關の現勢

目 次



第
一
章

序

說

第二章 滿洲に於ける新聞紙の現勢

第一節 邦字新聞の現勢

第一項 關 東 州

六

第二項 奉 天 省

一

第三項 吉 林 省

一

第二節 漢字新聞の現勢

第一項 關 東 州

二九

第二項 奉 天 省

三三

第三項 吉 林 省

四一

索引

(イロハ順)

題 號	頁數
哈爾濱日日新聞	27
哈爾濱通信	27
哈爾濱無線電通信	87
日本電報通信(大連)	78
同 (奉天)	81
日本新聞聯合(大連)	79
同 (奉天)	83
滿通信	78
奉天新聞	11
奉天每日新聞	12
奉天日日新聞	13
奉天市報	36
奉天電報通信	81
奉天無線電通信	83
滿日報	23
滿通信	85
東三省民報	34
東三省公報	35
東三省商報	52
遼寧省時報	39
遼寧省商報	49
遼寧省早報	54
遼寧省新民報	59
東方通信(奉天)	60
同 (哈爾濱)	82
長春實業新聞	24
龍江益時報	63
ルスコエ・スローウカ	72
ルーポル	74
ルシアン・データリー・ニュース	75
開原新報	18
開原實業時報	19
開東通訊	32
華東新報	85
大連新報	62
大連東日報	9
泰東日報	30
泰東日報	42
泰東新報	58
タツス通信	88
遠東新報	8
遼鞍每日新聞	15
通俗報	48
通俗教育報	65
題 號	頁數
ムクデンスキーウエストニック	69
ノーウオステジーズニ	71
滿洲日日新聞	7
滿洲商業新報	10
滿洲新報	16
滿洲通信報	80
滿洲報	31
マンチュリア・データリー・ニュース	67
撫順新報	21
國民國際報	45
國國午黑鐵嶺	50
國國午黑鐵嶺	86
黑龍江日報	56
黑龍江日報	64
黑龍江日報	66
黑龍江時報	16
鐵嶺每日新聞	17
帝國通信(大連)	79
同 (奉天)	82
同 (哈爾濱)	84
東安時報	22
探ザ東風日報	61
探ザ東風日報	73
吉林長日報	26
吉林長日報	46
洮江新報	20
松江日報(邦)	25
同 (漢)	51
社會與教育報	40
新農共和報	47
光	53
シヅガエ・スローグ	76
營商日報	38
遠東通信報	87
江濱時報	55
モル時報	70
盛京時報	33
醒正時報	37
正俗日報	44
正俗日報	43

第三節 外字新聞の現勢

第三節 外字新聞の現勢

卷之六

第一項 大

天連

連天六七六八

第三項 喻滿

洲 開
里 漢

卷六
七五

第三章 満洲に於ける通信社の現勢

七七

第二節 奉天
第三節 哈爾濱

八〇 八四

卷一百一十一

満洲における言論機關の現勢

章序說



満洲界の一大特徴として支那近代史が吾等に教ふるところは、満洲が本來固有の支那領土に非ずして支那本部から統治支配さることなく、政治的には常に一特殊單位を構成しつゝあつた一事である。而已ならず、史實の示すところは、却つて満洲に興起せる國家が本部支那を征服統治し、或は之を其の屬領たらしめたことを傳へてゐる。満洲の支那本部に對する斯の如き特異性は、清朝に及んで始めて支那本土と合して清國を形成し、漸く其の領土權乃至事實上の所屬關係や、明瞭たるに到つたが、其の清朝末期に於ては、再び事實上の所屬關係を無主の地域に復歸せしめ、其の政治的特殊地域としての特異性を近代にまで連續せしめてゐる。

現在、日本が満洲に於て特殊の地位を保持し、關東州の租借、南滿洲鐵道の經營を行ひ、更に諸般の文化的施設を爲しつゝある事實的根據は、實に満洲が支那の統治下に在らざりし其の政治的特異性に基因するものである。即ち、清朝の末期、中央政府の威令漸く衰頽するに及び、豫て東方經略の機を窺へる強露帝國主義の魔手は極東に延び、満洲は事實上露西亞帝國の勢力下に置かれ、日本は日露戰爭を経てこの事實的占領地を繼承するに到つた。從つて、日本の満洲に於ける政治的經濟的特殊利權の獲得は、支那——當時の清國より讓與せられしに非ずして、ボーツマス條

約に基づきて露西亞より繼承せるものである。この事實は、疑もなく滿洲に對する日本の特殊的利權存在の事實的基礎を實證するものである。

而も日露戰役に於て、日本は滿洲に對する支那の領土權を確認すると共に、之を中外に宣明し、銳意其の經濟的開發を提倡し來つた。然るに、露西亞は日露戰後も尙東支鐵道に據りて北滿に蟠居し、其の東方經略の雄志を翻がへさなかつた。歐洲大戰に次ぐロマノフ王朝の崩壊は、一度其の東方經略の銳峰を潛むるの餘儀なきを見たが、勞農聯邦の成立、其の充實化は再び露西亞を驅つて其の視野を極東に注がしめ、以て舊勢力挽回に努めしむるに到つた。加ふるに、張作霖の擡頭は、東三省王國の建設を促進せしめ、東北に國境を接して利害を等しうする日本、勞農露西亞二勢力の存在は、漸く其の國際關係を複雜化たらしめた。如上の如き滿洲を中心とする日露兩國の對立は、近代支那史に現はるゝ多くの對外交渉問題を惹起し、地理的には極東の一邊境に過ぎざる滿洲をして、今や全世界の視聽を集めに足る重要地點たらしむるに到つた。東支鐵道問題、土地商租問題、旅大回收問題の如き、三國の利害相錯綜して現代滿洲は悉く未解決の儘に存置されてゐる。滿洲に於ける支那は依然として領土權の保持者ではあるが、事實上は日、支、露三國の自由競争場の觀がある。

斯の如き滿洲の特異性は亦、滿洲に於ける言論機關をして、必然的に日、支、露三國を中心として發達せしめ來つた。言論機關、殊に新聞紙の起源及び發達は、地方の文化、時代の反映であると稱せられるが、滿洲に於ける言論機關、殊に新聞紙の發達は、滿洲文化の史的過程の新しきと共に、極めて最近の事實に屬する。従つて、滿洲に於ける言論機關の現狀を看るに、新聞紙の多くは單に報道機關或は宣傳機關としての使命を有するに過ぎず、未だ商品化せられたる新聞紙の存在を見ず、新聞發達史の上よりすれば今尙勃興時代に屬してゐる。されば、滿洲に於ける新聞紙

の背景となる國家關係、黨派關係及び其の主義、主張、系統、色彩の如きは、錯綜を極むる現代滿洲の日、支、露三國の現勢の一斑を窺ふ鳥瞰圖である。

第二章 滿洲に於ける新聞紙の現勢

滿洲に於ける新聞紙の現勢を窺ふには、之を邦字紙、漢字紙及び外字紙に分つて考察するを便宜とする。斯る分類を執る所以は、大體に於て邦字紙は日本を、漢字紙は支那を、然して外字紙主として露字紙は勞農露西亞の勢力を象徴しつゝあるに基づく。尤も一二の例外はあるも、是は大體論として何人にも首肯され得るであらう。然して更に地理的考察を加ふるならば、大連は日本を、奉天は支那を、哈爾賓は勞農露西亞を代表しつゝありと稱するも過言ではない。新聞紙の用語別と共に、斯る地理的分野も亦相當重要視すべきであり、且爾餘の各地に於ける地方的諸新聞に就ても検討を加ふるの要がある。

滿洲に於ける新聞紙の現勢を、用語別及び地理別的に表示すれば次の如くで、外字紙の大部分は露字紙である。

滿洲に於ける新聞紙の現勢

(大正十五年八月現在)

地名	邦字紙	漢字紙	外字紙
一、關東州内	連	四	一
二、奉天省内	天	三	一
三、奉天	五	一	一
四、遼寧	一	一	一
五、黑龍江省	一	一	一
六、吉林省	一	一	一
七、滿洲里	一	一	一
八、黑河	一	一	一
九、齊齊哈爾	一	一	一
十、哈爾濱	一	一	一
十一、長春	一	一	一
十二、瀋陽	一	一	一
十三、瀋陽	一	一	一
十四、哈爾濱	一	一	一
十五、齊齊哈爾	一	一	一
十六、黑河	一	一	一
十七、滿洲里	一	一	一
十八、黑龍江省	一	一	一
十九、吉林省	一	一	一
二十、奉天省	一	一	一
二十一、遼寧	一	一	一
二十二、關東州内	一	一	一
二十三、奉天	一	一	一
二十四、黑龍江省	一	一	一
二十五、吉林省	一	一	一
二十六、滿洲里	一	一	一
二十七、黑河	一	一	一
二十八、齊齊哈爾	一	一	一
二十九、哈爾濱	一	一	一
三十、瀋陽	一	一	一
三十一、瀋陽	一	一	一
三十二、哈爾濱	一	一	一
三十三、齊齊哈爾	一	一	一
三十四、黑河	一	一	一
三十五、滿洲里	一	一	一
三十六、黑龍江省	一	一	一
三十七、吉林省	一	一	一
三十八、奉天省	一	一	一
三十九、遼寧	一	一	一
四十、關東州内	一	一	一
四十一、奉天	一	一	一
四十二、黑龍江省	一	一	一
四十三、吉林省	一	一	一
四十四、滿洲里	一	一	一
四十五、黑河	一	一	一
四十六、齊齊哈爾	一	一	一
四十七、哈爾濱	一	一	一
四十八、瀋陽	一	一	一
四十九、瀋陽	一	一	一
五十、哈爾濱	一	一	一
五十一、齊齊哈爾	一	一	一
五十二、黑河	一	一	一
五十三、滿洲里	一	一	一
五十四、黑龍江省	一	一	一
五十五、吉林省	一	一	一
五十六、奉天省	一	一	一
五十七、遼寧	一	一	一
五十八、關東州内	一	一	一
五十九、奉天	一	一	一
六十、黑龍江省	一	一	一
六十一、吉林省	一	一	一
六十二、滿洲里	一	一	一
六十三、黑河	一	一	一
六十四、齊齊哈爾	一	一	一
六十五、哈爾濱	一	一	一
六十六、瀋陽	一	一	一
六十七、瀋陽	一	一	一
六十八、哈爾濱	一	一	一
六十九、齊齊哈爾	一	一	一
七十、黑河	一	一	一
七十一、滿洲里	一	一	一
七十二、黑龍江省	一	一	一
七十三、吉林省	一	一	一
七十四、奉天省	一	一	一
七十五、遼寧	一	一	一
七十六、關東州内	一	一	一
七十七、奉天	一	一	一
七十八、黑龍江省	一	一	一
七十九、吉林省	一	一	一
八十、滿洲里	一	一	一
八十一、黑河	一	一	一
八十二、齊齊哈爾	一	一	一
八十三、哈爾濱	一	一	一
八十四、瀋陽	一	一	一
八十五、瀋陽	一	一	一
八十六、哈爾濱	一	一	一
八十七、齊齊哈爾	一	一	一
八十八、黑河	一	一	一
八十九、滿洲里	一	一	一
九十、黑龍江省	一	一	一
九十一、吉林省	一	一	一
九十二、奉天省	一	一	一
九十三、遼寧	一	一	一
九十四、關東州内	一	一	一
九十五、奉天	一	一	一
九十六、黑龍江省	一	一	一
九十七、吉林省	一	一	一
九十八、滿洲里	一	一	一
九十九、黑河	一	一	一
一百、齊齊哈爾	一	一	一
一百零一、哈爾濱	一	一	一
一百零二、瀋陽	一	一	一
一百零三、瀋陽	一	一	一
一百零四、哈爾濱	一	一	一
一百零五、齊齊哈爾	一	一	一
一百零六、黑河	一	一	一
一百零七、滿洲里	一	一	一
一百零八、黑龍江省	一	一	一
一百零九、吉林省	一	一	一
一百一十、奉天省	一	一	一
一百一十一、遼寧	一	一	一
一百一十二、關東州内	一	一	一
一百一十三、奉天	一	一	一
一百一十四、黑龍江省	一	一	一
一百一十五、吉林省	一	一	一
一百一十六、滿洲里	一	一	一
一百一十七、黑河	一	一	一
一百一十八、齊齊哈爾	一	一	一
一百一十九、哈爾濱	一	一	一
一百二十、瀋陽	一	一	一
一百二十一、瀋陽	一	一	一
一百二十二、哈爾濱	一	一	一
一百二十三、齊齊哈爾	一	一	一
一百二十四、黑河	一	一	一
一百二十五、滿洲里	一	一	一
一百二十六、黑龍江省	一	一	一
一百二十七、吉林省	一	一	一
一百二十八、奉天省	一	一	一
一百二十九、遼寧	一	一	一
一百三十、關東州内	一	一	一
一百三十一、奉天	一	一	一
一百三十二、黑龍江省	一	一	一
一百三十三、吉林省	一	一	一
一百三十四、滿洲里	一	一	一
一百三十五、黑河	一	一	一
一百三十六、齊齊哈爾	一	一	一
一百三十七、哈爾濱	一	一	一
一百三十八、瀋陽	一	一	一
一百三十九、瀋陽	一	一	一
一百四十、哈爾濱	一	一	一
一百四十一、齊齊哈爾	一	一	一
一百四十二、黑河	一	一	一
一百四十三、滿洲里	一	一	一
一百四十四、黑龍江省	一	一	一
一百四十五、吉林省	一	一	一
一百四十六、奉天省	一	一	一
一百四十七、遼寧	一	一	一
一百四十八、關東州内	一	一	一
一百四十九、奉天	一	一	一
一百五十、黑龍江省	一	一	一
一百五十一、吉林省	一	一	一
一百五十二、滿洲里	一	一	一
一百五十三、黑河	一	一	一
一百五十四、齊齊哈爾	一	一	一
一百五十五、哈爾濱	一	一	一
一百五十六、瀋陽	一	一	一
一百五十七、瀋陽	一	一	一
一百五十八、哈爾濱	一	一	一
一百五十九、齊齊哈爾	一	一	一
一百六十、黑河	一	一	一
一百六十一、滿洲里	一	一	一
一百六十二、黑龍江省	一	一	一
一百六十三、吉林省	一	一	一
一百六十四、奉天省	一	一	一
一百六十五、遼寧	一	一	一
一百六十六、關東州内	一	一	一
一百六十七、奉天	一	一	一
一百六十八、黑龍江省	一	一	一
一百六十九、吉林省	一	一	一
一百七十、滿洲里	一	一	一
一百七十一、黑河	一	一	一
一百七十二、齊齊哈爾	一	一	一
一百七十三、哈爾濱	一	一	一
一百七十四、瀋陽	一	一	一
一百七十五、瀋陽	一	一	一
一百七十六、哈爾濱	一	一	一
一百七十七、齊齊哈爾	一	一	一
一百七十八、黑河	一	一	一
一百七十九、滿洲里	一	一	一
一百八十、黑龍江省	一	一	一
一百八十一、吉林省	一	一	一
一百八十二、奉天省	一	一	一
一百八十三、遼寧	一	一	一
一百八十四、關東州内	一	一	一
一百八十五、奉天	一	一	一
一百八十六、黑龍江省	一	一	一
一百八十七、吉林省	一	一	一
一百八十八、滿洲里	一	一	一
一百八十九、黑河	一	一	一
一百九十一、齊齊哈爾	一	一	一
一百九十二、哈爾濱	一	一	一
一百九十三、瀋陽	一	一	一
一百九十四、瀋陽	一	一	一
一百九十五、哈爾濱	一	一	一
一百九十六、齊齊哈爾	一	一	一
一百九十七、黑河	一	一	一
一百九十八、滿洲里	一	一	一
一百九十九、黑龍江省	一	一	一
二百、吉林省	一	一	一
二百零一、奉天省	一	一	一
二百零二、遼寧	一	一	一
二百零三、關東州内	一	一	一
二百零四、奉天	一	一	一
二百零五、黑龍江省	一	一	一
二百零六、吉林省	一	一	一
二百零七、滿洲里	一	一	一
二百零八、黑河	一	一	一
二百零九、齊齊哈爾	一	一</	

第一節 邦字新聞の現勢

满洲に於ける邦字新聞の権要なる目的は、日本の國情を支那に知悉せしむべきをその第一義と爲すではあらうが、その現勢より推すときは單なる日本人の爲の報道機關たるに過ぎない觀がある。勿論滿洲の邦字新聞に現はるゝ社説、論評の如きが、漢、露譯せられて露支兩國民に傳へられつゝあるは、否むべからざる事實ではあるが、邦字新聞の大部分は滿洲在住の日本人をその主要なる購讀者と爲してゐる。従つて、二十五萬或は三十萬と稱せらるゝ在滿日本人に對する二十二新聞の存在は、必然的に新聞社間の販賣競争を促進せしめて一頭地を抜くが如き勢力ある邦字新聞の發達を見るに到らない。滿洲に在る邦字新聞間の代表的新聞紙の出現を期待すべきが、政策上適切なりや否やは論議の岐るゝところではあらうが、現在では大連の滿洲日日新聞及び遠東新報の二紙が、その發行部數及び比較的通信網の完備せる點に於て代表的と稱せられてゐる。

滿洲に於ける邦字新聞の發行に關しては、何れも日本の新聞紙法に準據し、關東州内は關東廳之が取締を擔任し、東三省内のそれに就ては領事館警察が之に當つてゐる。

第一項 關 東 州

大 連

大連に於ける邦字新聞の権要なるものは、滿洲日日新聞、遠東新報及び大連新聞の三紙である。この外、商況記事を中心とする満洲商業新報あるも、時事掲載を許されてゐない。關東新聞、滿洲ラジオ新聞、滿洲婦人新聞あるも、

一、滿洲日日新聞

單にその名稱を新聞と稱するに過ぎざるものである。

三紙のうち、遠東新報の創刊最も古く、滿洲日日新聞之に次ぎ、大連新聞は大正九年その創刊を見た。滿洲日日新聞は滿鐵の御用紙として、遠東新報は反滿鐵紙として、この兩紙は常に相對立を續け來つてゐる。

所 在 地	大連市東公園町二一
組 織	株式會社（滿鐵が株式の大半を所有す）
資 本	五拾萬圓
創 立 年 月	明治四十二年十一月
經營	株式會社滿洲日日新聞社（社長小山内大六）
編 輯	鶴川久助
黨 派	滿鐵系（關東廳公報の配付を行へり）
關 係	鈴木常次
主 義	印刷人中松國彦
色	無
數	朝刊八頁、夕刊四頁
人	編輯人鶴川久助
員	發行人鶴木常次
社	印刷人中松國彦
頁	編輯部二五名
名	營業部一五名
職	二〇〇名
工	
場	
設	
備	輪轉機二臺を有す

二、遼東新報	
營業状態	良好
發行部數	一箇月金壹圓參拾錢
創立年月	明治三十八年十月二十五日
在者	株式會社
資本金	五十萬圓
組織地	大連市敷島町六八
主義	編輯人小池幸三郎
派員	發行人吉野直治
色彩	印刷人都知木豊太
關係	編輯部二九名
工場設備	營業部一六名
筆數	七四名
色彩	輪轉機一臺、平盤三を有す
關係	反滿鐵系
主義	難波勝治
派員	無

三、大連新聞	
營業狀態	良好
發行部數	一箇月金壹圓參拾錢
創立年月	大正九年五月五日
在地	大連市飛彈町六七
組織	株式會社
資本金	拾四萬圓
主義	編輯人大内四郎
派員	發行人實性確成
關係	印刷人佐藤豐
色彩	實性確成
筆數	三八名
關係	中立
工場設備	輪轉機一臺 朝刊四頁、夕刊四頁
筆數	編輯部二九名 營業部三五名

四、満洲商業新報	定發行部數	營業状態	良好
			一箇月金壹圓貳拾錢
所立年月	在地	創立年月	大正六年十二月
資本金	組織	經營者	山口忠三
社員數	頁数	筆者	森宣次郎
工員數	四頁	編輯人	森宣次郎
工場設備		發行人	山口忠三
定價		印刷人	長岡源次兵衛
發行部數		輪轉機	一臺有
		不詳	
		不詳	
		一箇月金八拾錢	
		二、六一〇部(大正十四年十二月調査)	

備考

商況記事を中心として、時事の報道を行はず

第二項 奉天省

滿洲に在る日本人の大多數は、關東州内及び南滿洲鐵道沿線に居住してゐる。南滿洲鐵道沿線は普蘭店以南及び北端の長春、孟家屯を除けば、何れも奉天省に屬してゐる。奉天省は營口、遼陽、奉天、鐵嶺、開原、四平街、撫順安東の各地を包轄せるを以て、奉天省内に於ける邦字新聞は、種類の點に於て最も多い。然しその發行部數に於ては全紙を通算するも、尙滿洲日日新聞、遼東新報の二紙に及ばざる程度の地方新聞に過ぎない。

一、奉天

一、奉天新聞

主義色	色彩	中立	なし	奉天信濃町二二一	個人經營	資本金	月立年	本社所在地	在地
主黨派	色彩	中立	なし	佐藤善雄	個人經營	七萬五千圓	大正六年八月三十日	奉天信濃町二二一	奉天
主營	色彩	中立	なし	小松利兵衛	個人經營	七萬五千圓	大正六年八月三十日	奉天信濃町二二一	奉天
資本	色彩	中立	なし						
創立	色彩	中立	なし						

第二章 满洲に於ける新聞紙の現勢

夕刊四頁

編輯人古田部信次 発行人内山石松 印刷人德善清臣

編輯部五名 营業部四名 日本人三名 中國人二〇名

平盤二臺を有す

不明

一箇月金壹圓

三、〇〇〇部(大正十五年六月調査)

社名	主編者	創立年	所在地	組數	資本額	社員數	職員數	工場設施	營業狀態	備考
奉天每日新聞	不 明	大正九年七月一日	奉天十間房	十五萬圓	松宮幹雄	筆者	色彩	中立	個人經營	奉天浪速町三六 個人經營

社名	主編者	創立年	所在地	組數	資本額	社員數	職員數	工場設施	營業狀態	備考
朝刊四頁、夕刊四頁	編輯人橋本松道	明治四十一年十二月七日	印刷人橋本松道	三、〇〇〇部(大正十五年六月調査)	發行人高味万之助	編輯部七名	營業部三名	輪轉機一臺あり	個人經營	遼東新報(大連)の傍系たり

社名	主編者	創立年	所在地	組數	資本額	社員數	職員數	工場設施	營業狀態	備考
三、奉天日日新聞	吉野直治	明治四十一年十二月七日	印刷人橋本松道	一箇月金壹圓貳拾錢	發行人高味万之助	編輯部七名	營業部三名	輪轉機一臺あり	個人經營	遼東新報(大連)の傍系たり

社名	主編者	創立年	所在地	組數	資本額	社員數	職員數	工場設施	營業狀態	備考
三、奉天日日新聞	吉野直治	明治四十一年十二月七日	印刷人橋本松道	一箇月金壹圓貳拾錢	發行人高味万之助	編輯部七名	營業部三名	輪轉機一臺あり	個人經營	遼東新報(大連)の傍系たり

主 義 色 彩	頁 社 職 工 場 設 備 數	頁 員 工 數	頁 人 數	頁 社 職 工 場 設 備 數	頁 員 工 數	頁 人 數
------------------	--------------------------------------	------------------	-------------	--------------------------------------	------------------	-------------

夕刊四頁
編輯人矢部遷吉 發行人難波勝治 印刷人佐野定吉
編輯部五名 營業部四名
日本人二名 中國人二十名
平盤一臺

一箇月金壹圓
二、三〇〇部（大正十五年六月調査）
創刊當時は南滿日報と稱し、爾來經營の變更毎に改題四回に及び、大正十五年五月現在名
稱となり

満洲新報

二、營口

所 在 地 組 織 本 金 創 立 年 月	所 在 地 組 織 本 金 創 立 年 月	所 在 地 組 織 本 金 創 立 年 月
---	---	---

營口南本街
個人經營
未詳
明治四十一年二月十一日

經 營 者	主 義 色 彩	主 義 色 彩	經 營 者
-------------	------------------	------------------	-------------

小川義和
特殊的のものなし
朝刊四頁
編輯人淡路政太郎 發行人小川義和
編輯部三名 營業部一名
一五名
輪轉機の設備なし
一箇月金七拾錢
三、〇〇〇部（大正十五年六月調査）
印刷人皆川博

遼鞍每日新聞

三、遼陽

資 本 金 創 立 年 月	在 地 組 織 本 金 創 立 年 月
---------------------------------	--

遼陽佟家大街二七
個人經營
不明
明治四十一年三月十日

經營者	渡邊德重	黨派關係	主義色彩	人數	數字	工員	社會職業	工場設備	營業狀態	發行部數	價錢
渡邊德重	無	無	無	四	七	七名	編輯部四名	編輯人渡邊德重	小型四頁	四	一箇月金五拾錢
渡邊德重	穩健	穩健	穩健	三	三	三名	營業部三名	發行人渡邊德重	發行人渡邊德重	三	平盤二臺（印刷業を兼營す）
渡邊德重	印刷人渡邊源次郎	印刷人渡邊源次郎	印刷人渡邊源次郎	二	二	二台	工場設備	工場設備	良好	二	九六〇部（大正十五年六月調査）
渡邊德重	渡邊德重	渡邊德重	渡邊德重	一	一	一名	社員	社員	社員	一	一箇月金五拾錢

四
鑑
卷

所 在 地 鐵嶺附屬地外元町二
組織 組合 個人經營

資本	創立年月	明治四十四年八月一日
經營者	西尾信	西尾信
主義	色彩	無
頁數	人數	夕刊四頁
社員	工數	編輯人西尾信
職工	數人	發行人西尾信
工場設備	數	編輯部三名
定價	人數	營業部二名
發行部數	數	中國人一二名
五五〇部	一箇月金七拾五錢	平盤四臺
(大正十五年六月調查)		

組所
在地
鐵嶺附
固人經

所 在 地
鐵嶺附屬地外櫻町
個人經營
金 豈 萬 圓
大正六年十月三十日

第一回 滅めし新間紙の死夢

経営者	迫田采之助
主義	日支親善主義を標榜す
色彩	四頁
筆數	迫田采之助
考	大正十五年六月調査)
備	一箇月金七拾錢
發行部	五〇〇部
定	ロール平盤三臺
工場	編輯人坪谷蘇助
職工	發行人羅蘋青
社員	印刷人李向清
員數	編輯部二名
人數	營業部二名
色數	中國人一二名
數	

五、開原新報

所組資本	在地
金	個人經營

壹萬圓

創立年月	大正八年二月十一日
經營者	山田民五郎
主義	山田民五郎
色彩	小形四頁
筆數	編輯人山田民五郎
數	發行人山田民五郎
印	印刷人山田民五郎
刷	手刷機二臺(印刷業兼營)
機	一箇月金七拾錢
備	二〇〇部(大正十五年六月調査)
發行部	
定	
工場	
職工	
社員	
員數	
人數	
色數	
數	

二、開原實業時報

所組資本	在地
金	個人經營
織者	開原附屬地第二區五號

第二章 满洲に於ける新聞紙の現勢

一九

第二章 满洲に於ける新聞紙の現勢

二〇

篠田仙十郎 小形四頁

編輯人田下改正 不明

发行人篠田仙十郎

印刷人佐藤吾平

一箇月金五拾錢

二〇〇部(大正十五年六月調査)

主として商況の報道に當れり

四 洪 新 聞

六、四 平 街

主義	色彩	社員	職工	工場	定價	發行部數	所本	組立年月	創立年月	經營者	資金	在織地
主義	色彩	筆者	員數	工數	備數	價數	地	地	地	仁壽街	個人經營	四平街

約壹萬圓

大正九年十月一日

櫻井教輔

櫻井教輔

經濟商況の報導紙

頁数	社員數	職工數	工場設備數	定價	發行部數
小形四頁	不明	一〇名	手刷機三臺(印刷業を兼營す)	一箇月金五拾錢	五〇〇部(大正十五年六月調査)

七、撫順新報

主義	色彩	筆者	員數	工數	備數	價數	發行部數	所本	組立年月	創立年月	經營者	資金	在織地
主義	色彩	筆者	員數	工數	備數	價數	發行部數	所本	組立年月	創立年月	經營者	資金	在織地

頁 數	朝刊四頁
社 員 數	編輯人土屋文藏
工 場 設 備	發行人崔田利平
定 發 行 部 數	印刷人中山豐
七〇〇部（大正十五年八月調査）	無（印刷所撫順印刷會社）

七〇〇部（大正十五年八月調査）

八、安東新報

頁 數	朝刊四頁
社 員 數	編輯人西江靖
工 場 設 備	發行人川俣篤
主 義 色 彩 數	印刷人杉戸小一郎
創 立 年 月	明治三十九年十月十七日
經 營 者	川俣篤
本 金	安東縣五番通四ノ三 金五萬圓
在 地	個人經營

朝刊四頁

名義人 社員數 職工數 工場設備 定發行部數

編輯人西江靖 發行人川俣篤 印刷人杉戸小一郎
 編輯部五名 營業部四名
 一四名
 平盤一臺
 一箇月金九拾錢
 一八二〇部（大正十五年六月調査）

第三項 吉林省

南滿洲鐵道の北端驛たる長春、吉長鐵道の終端たる吉林、北滿の中樞都市たる哈爾濱は、何れも吉林省に屬する。この三都市は吉林省内に於ける主要都市にして、邦字新聞亦この三地に於て刊行されつゝある。（哈爾濱の「哈爾濱通信」は、其地總領事館に於て新聞名を冠するを許可せざる爲、通信に名を藉るものにして、その實質は通信と稱するよりも寧ろ新聞紙なるを以て、便宜上新聞の部に加へた。）

一、長春

一、北滿日報

所 組 在 地	長春中央通一九
資 本 金	金壹萬圓

第二章 满洲に於ける新聞紙の現勢

第二章 满洲に於ける新聞紙の現勢

二四

創立年月	明治四十二年一月一日
経営者	箱田琢磨
筆者	泉康治
義色	無
主な職員数	九名
社員数	編輯部五名
記者数	營業部二名
発行部数	夕刊四頁
印刷機数	編輯人泉康治
刷版机数	發行人箱田琢磨
工場設備	印刷人高橋勝藏
資本額	編輯人泉康治
在地	長春永樂町四ノ一
組織	匿名合資組織
創立年月	大正九年十二月十五日
経営者	柏原孝久
筆者	一箇月金八拾錢
主な職員数	平盤一臺
記者数	一箇月金八拾錢
発行部数	二、三一五部（大正十五年六月調査）

二、长春實業新聞

所長	老木近信
主編	夕刊四頁
記者数	編輯人老木近信
社員数	發行人十河榮忠
職員数	印刷人石井亥之吉
工場設備	編輯部六名
工場設備	營業部三名
工場設備	一一名
工場設備	輪轉機一臺
工場設備	一箇月金八拾錢
定価	一箇月金八拾錢
發行部数	一、六五〇部（大正十五年六月調査）

一、松江日報

所長	吉林商埠地
主編	個人經營
記者数	不明
社員数	大正十二年九月
職員数	三橋政明
工場設備	不
工場設備	明
工場設備	立
工場設備	年
工場設備	者
資本額	本
在地	江
組織	松
創立年月	日
經營者	報

主 義 色 彩 數 數 員 工 數 備 備 設 場 行 部 考 備	主 頁 社 社 員 工 數 編 輯 部 二 名	時 政 時 政 四 頁
無 彩 數 數 四 頁	編輯部二名	不明

時政清無四頁編輯部二名不明平型印刷機を有す四〇〇部(大正十

嘗て外務省より補助金を仰げることあり

吉林商埠地大街
個人經營
在地織金本創立年月
經營者筆者色彩色義主義
不
明
明治四十四年二月
兒玉多一
兒玉多一
無

頁 社 職 工 員 數 數	編輯部二名
工 場 設 備 數	八名
營 業 狀 態 價	不明
定 發 行 部 數	困難の模様にて、目下週刊を出せり 一箇月五拾錢
三五〇部（大正十五年六月調査）	

所在地 哈爾濱一面街
株式會社
資本 貳拾萬圓
創立年月 大正十一年一月
經營者 筆者
主義色彩 無
大河原厚仁

三
四
背
誦

第二章 滿洲に於ける新聞紙の現勢

二八

頁 名 社 職 工 場 設 備 發 行 部 數 考	義 員 數 工 數 備 價 八〇〇〇部(大正十五年六月調査)	人 編輯人大河原厚仁 發行人兒玉右一 印刷人大河原厚仁	數 編輯部五名 不明
二、哈爾濱通信	一箇月壹圓五拾錢	あるも不詳	

資 本 金 額 數 創 立 年 月 營 者 筆 數 四 頁	所 在 地 哈爾濱地段街 個人經營 參千圓	組 織 本 金 額 數 創 立 年 月 營 者 筆 數 大川周 三
二、哈爾濱通信	哈爾濱地段街 個人經營 參千圓	哈爾濱地段街 個人經營 參千圓

名 社 工 場 設 備 發 行 部 數 考	義 員 數 編輯部二名 無	社 員 數 編輯人 編輯部二名	工 場 設 備 發 行 部 數 考
二、哈爾濱通信	無	編輯人 編輯部二名	無

編輯人 編輯部二名	發行人 編輯部二名	印刷人 編輯部二名
一箇月壹圓	三〇〇部(大正十五年六月調査)	通信と稱するも、實質は新聞紙たり

第二節 漢字新聞の現勢

滿洲に於ける漢字新聞は、大連の泰東日報、滿洲報及び關東報、奉天の盛京時報、吉林の東省日報の五紙を除いて、何れも支那人に因つて經營されてゐる。その多くは省當局、或は商務會の機關紙として存在してゐるが故に、その報道に就ては可成り虛構の事實が登載される。從つて報道機關としての價値に就ては疑問を抱かざるを得ないが、反面的宣傳機關として見るときは、その存在價値は充分であらう。

盛京時報、泰東日報の兩紙は、日本人の經營に懸はあるものではあるが、その公正なる論評と、迅速なる報道とは、可成りに支那人間に購讀者を有して相當の勢力を扶植してゐる。滿洲報、關東報の兩紙亦、昨冬の張郭戰亂以後購讀者漸増の傾向を示してゐる。

第一項 關 東 州

一、泰東日報

所組資創立年月在地
主義派關係人數筆者
頁社職員工場設業狀態備數價錢
經黨派關係人數筆者
創立年月在地
資本金織地

大連市奧町八五
個人經營
明治四十一年十一月三日
社長阿部眞言
平山武靖
日本系
編輯人李子民
發行人阿部眞言
印刷人李福綿
編輯部二三名
營業部一八名
四〇名
輪轉機一臺
朝刊八頁
一箇月金壹圓拾錢
一一、九五一部(大正十四年十二月調)

備考

創立以來金子雪齊主宰し、その死後現社長經營に當る

所組資創立年月在地
主義派關係人數筆者
頁社職員工場設業狀態備數價錢
經黨派關係人數筆者
創立年月在地
資本金織地

大連市山縣通一四二
個人經營
大正十一年七月二十四日
西片朝三
久留宗一
中立(日本系)
中立
拾萬圓
朝刊八頁
編輯人金念會
發行人西片朝三
印刷人金慕華
編輯部一九名
營業部一一名
二四名
輪轉機一臺、平盤一臺を有す
良好
一箇月大洋壹元

備考

創立以來金子雪齊主宰し、その死後現社長經營に當る

所組資創立年月在地
主義派關係人數筆者
頁社職員工場設業狀態備數價錢
經黨派關係人數筆者
創立年月在地
資本金織地

大連市山縣通一四二
個人經營
大正十一年七月二十四日
西片朝三
久留宗一
中立(日本系)
中立
拾萬圓
朝刊八頁
編輯人金念會
發行人西片朝三
印刷人金慕華
編輯部一九名
營業部一一名
二四名
輪轉機一臺、平盤一臺を有す
良好
一箇月大洋壹元

備考	發行部數	一九、五四七部（大正十四年十一月調査）
----	------	---------------------

三、關東報

在地	大連市西崗子泰公街二八
資本金	拾萬圓
創立年月	大正九年一月十一日
經營者	社長永田善三郎 副社長市川年房
組織	個人經營
主編	王子衡
黨派	中立（日本系）
資本主義	無
頁數	朝刊八頁
社員數	編輯人王子衡 發行人太村勝太郎 印刷人樂民興
職工數	編輯部三名 訂正部八名
工作場	二八名
設施	平盤二臺
狀態	

備考	定價	發行部數
	一箇月小洋壹圓	四、五〇〇部（大正十四年六月調査）

第二項 奉天省

奉天省に於ける漢字新聞は、奉天、營口及び安東の三都市に於て發達し來つた。營口、安東兩地の新聞は微力殆んど問題とされず、唯奉天に在る諸新聞のみは、その東三省の政治的中心地たる地勢と共に注目すべきものがある。最近に於ける奉天省、乃至東三省當局者の言論機關に對する壓迫振りは頗る峻烈を極め、北京の京報、社會日報兩社長の銃殺の如き、タツス通信日本新聞聯合通信の打電禁止の如き、何れも奉天派に因つて招來された。從つて、現在奉天に在る諸新聞は何れもその御用紙たる觀を呈し、天津、上海の諸新聞特派員は何れも居所姓名を秘してゐる。

一、奉天

天

二、盛京時報

在地	奉天隅田町九
組織	株式會社
資本金	參拾萬圓
創立年月	明治三十九年十月一日
經營者	社長佐原篤介 副社長染谷保藏

主黨派	主義	色彩	頁數	筆者
社員數	人數	編輯部	發行人	印刷人
工數	工數	一五名	一五名	石原庄太郎
工場設備	輪轉機二臺	二〇二名	編輯部一五名	菊地貞二
營業狀態	良好	發行人宮川貫作	營業部一五名	純日本系
發行部數	一箇月大洋八角	印刷人石原庄太郎	夕刊八頁	穩健
備考	三〇、〇〇〇部（大正十五年六月調査）	編輯人菊地貞二	編輯部一五名	菊地貞二
創立者中島眞雄は大正十五年株式會社盛京時報社の設立と共に一切を之に譲渡せり		發行人宮川貫作	營業部一五名	
奉天省城大南門裡		印刷人石原庄太郎	夕刊八頁	
地方團體組織（東三省民治促進會）		編輯人菊地貞二	編輯部一五名	
奉票拾萬圓		發行人宮川貫作	營業部一五名	
東三省民報		印刷人石原庄太郎	夕刊八頁	
本金		編輯人菊地貞二	編輯部一五名	
創立年月		發行人宮川貫作	營業部一五名	
民國十一年十月二十三日		印刷人石原庄太郎	夕刊八頁	

三〇〇〇〇部（大正十五年六月調査）
創立者中島眞雄は大正十五年株式會社

1

創立年月	民國元年二月（光緒末年創刊の東三省日報の後身たり）
本社所在地	奉天省城小北門外
組織本部	地方團體
資本金	奉票二萬元
東三省公報	奉天派機關紙（國民黨系）
編輯部六名	八頁排日
營業部一〇名	八頁
職員數三〇名	三〇名
工場設備數平盤三臺	平盤三臺
營業狀態稍良	稍良
發行部數一箇月奉票二元	一箇月奉票二元
備考八、〇〇〇部（大正十五年六月調査）	八、〇〇〇部（大正十五年六月調査）
奉天省諸機關より月額三千元の補助あり	奉天省諸機關より月額三千元の補助あり

立年月—民國元年一月（光緒末年創刊の東三省日報の後身たり）

主　黨　派	主　黨　派	經　營　者	王　希　哲
頁　社　職	頁　社　職	王　玉　洗	奉天省機關紙
工　場　設　備	工　場　設　備	編輯部六名	編輯部六名
工員	工員	營業部四名	營業部四名
義　色　彩	義　色　彩	八　頁	八　頁
關　係	關　係	穩　健	穩　健
所　在　地	所　在　地	奉天市報	奉天市報
創立年月	創立年月	三〇名	三〇名
資　本	資　本	平盤二臺	平盤二臺
組　織	組　織	稍　良	稍　良
社　員	社　員	一箇月奉票二元	一箇月奉票二元
黨　派	黨　派	六、〇〇〇部（大正十五年六月調査）	奉天省各機關より補助金を仰げり
主　義	主　義		
頁　數	頁　數		
社　員	社　員		
工　場	工　場		
營　業	營　業		
定　發	定　發		
行　部	行　部		
備　考	備　考		

創立年月	奉天省城大西門裡市政公所内
本　金	官　營

創立年月 民國十二年十二月

經營者	市政公所教育科（盛桂樞）
筆　者	郭澤陽
頁　數	四　頁
社　員	奉天市政公所機關紙
工　場	編輯部三名
營　業	無（印刷所東都石印局）
定　發	不明
行　部	不明
備　考	一箇月大洋二元

三、五〇〇部（大正十五年六月調査）

奉天市政公所の佈告公布機關たると共に時事問題を併載す

所　在　地	奉天省城小南門外小十字街西口
創立年月	光緒三十一年（營口に於て創刊）
資　本	小洋壹萬五千元
組　織	個人經營
經營者	張子岐

第二章 滿洲に於ける新聞紙の現勢

主　黨　派	主　社　名	主　頁　數
總商會機關紙	王　大　魯	六頁
義　色　彩	呂　志　厚	五一名
工　場　設　備	朝刊六頁	一名
營　業　狀　態	不詳（印刷業を兼営す）	不明
定　發　行　部	一箇月小洋八拾錢	二、〇〇〇部（大正十五年六月調査）
備　考	商務總會及道尹公署の機關紙たり	

四、遼　　陽

社會與教育報

所 在 地：遼陽城内教育公所
組 織：官 営

資 本、金	不 明
創 立 年 月	民國十五年
經 營 者	教育公所
主 義 色 彩	筆 心 泉
主 場 設 備	陳 教育界機關紙
頁 數	小型四頁
工 建 發 行 部	なし（印刷所は遼陽縣立第七小學校職業科）
備 考	一箇月奉票一元 四〇〇部（大正十五年十月調査）

時事問題の論評を行へり

第三項 吉 林 省

吉林省の漢字新聞のうち、特筆すべきは哈爾濱に於けるその擡頭である。ロマノフ朝崩壊以後に於ける支那側の北滿に對する利權回収熱は漸次に昂まり、最近の情報では奉天側は東鐵學務課の廢止、鐵道附屬地の回収を迫りつゝある狀態で、これに伴ふて哈爾濱の漢字新報は相當の發展振りを示してゐる。

吉林省は省長公署所在地であり、且舊都として著名なるも言論機關の活躍は見るべきもの少く、長春の大東日報は排日紙として相當勢力がある。

第二章 滿洲に於ける新聞紙の現勢

四二

一、長春

所	組	資	本	在
創立年月	經營者	金	地	個人經營
民國四年七月十九日	霍戰一	大洋五千元	長春商埠地大馬路	
編輯部四名	李自義			
營業部二名				
夕刊四頁				
平盤一臺				
一二名				
工場設備數	彩	筆者	組織	資本
工業員數	關係	者	組	所
職工數	派系			
社會數	色彩			
發行部數	黨派			
營業狀態價	主義			
困難にして、支那側各機關上 一箇月大洋八角	創立年月	經營者	資本	在地

困難にして、支那側各機關より補助を仰げり
一箇月大洋八角

營業部二名

霍戰一

大洋五千元

個人經營

卷之三

一長

佛
表

に在り

二
正
俗
日
報

第二章 満洲に於ける新聞紙の現勢

四三

第二章　滿洲に於ける新聞紙の現勢

一
發
行
部
數

二五〇部（大正十四年四月調査）

三、醒民報

醒民

報

四國民日報

定 備 發 行 部 數 價
考 白 話 報 三一〇部（大正十四年四月調査）

112

1

100

10 of 10

資本	大洋五千元	個人經營
創立年月	民國十三年四月十九日	
營者	吳亞泉	
筆者	唐繼先	
關係	無	
色彩	四頁	
主義	不詳	
黨派		
主導		
頁數		
工員		
設備		
工場		
職工		
社員		
社會		
資本		

第二章 漢洲に於ける新聞紙の現勢

第二章 满洲に於ける新聞紙の現勢

四六

備定發行部數考	業狀態價
三二〇部(大正十四年四月調査)	不明

二、吉林

社員數	地主關係者筆數	地主關係者筆數	地主關係者筆數	地主關係者筆數	地主關係者筆數	地主關係者筆數	地主關係者筆數
八名	顧植	生植	吉東印刷社	一箇月小洋一元	二、二〇〇部(大正十五年六月調査)	六頁	八名
六名	魏生	盒植	吉林省行大街三道碼頭報館胡同 官營	五〇,〇〇〇元	宣統二年	六頁	八名
六頁	省長公署機關紙	中立(以前は排日的の傾向あり)	吉林糧米行大街三道碼頭報館胡同 官營	五〇,〇〇〇元	宣統二年	六頁	八名

一、吉林日報

備定發行部數考	職工數	印刷所	營業狀態	價格	發行部數考
八名	吉林城內印書館內	吉東印刷社	良好	一箇月小洋一元	二、二〇〇部(大正十五年六月調査)

二、新共和報

社員數	色彩關係者筆數	色彩關係者筆數	色彩關係者筆數	色彩關係者筆數	色彩關係者筆數	色彩關係者筆數	色彩關係者筆數
六名	中立	江大	葉揆	江大	葉揆	江大	葉揆
六頁	中立	一	一	一	一	一	一
編輯部五名	商工會機關紙	吉林城內印書館內	一〇,〇〇〇元	民國十四年四月	吉東印刷社	一箇月小洋一元	八名

第二章 滿洲に於ける新聞紙の現勢

四八

職工	工場設備	定價	發行部數	俗報
四〇名	不明(印刷業を兼營せり)	七〇〇部(大正十五年六月調査)	商務會、工務會より毎月補助金を仰げり	

社員	主義	派別	關係	筆者	創立年月	本社所在地	組織	資本額	經營者	地主
編輯部二名	吉林通俗教育館機關紙	孫穗健	初鶴泉	吉林城内江南街	民國六年一月	個人經營一千元				

備考	地主	經營者	資本額	關係	派別	主義	筆者	創立年月	本社所在地	組織	營業狀態	工場設備	定價	發行部數	俗報
白報 無(印刷所吉東印刷社) 個人經營 二〇,〇〇〇圓 大正十一年七月 三橋政明 劉振東 日本系 四頁 編輯部二名 營業部三名	吉林商埠地	吉林商埠地	二〇,〇〇〇圓	個人經營	大正十一年七月	三橋政明	劉振東	日本系	四頁	編輯部二名	不明	無(印刷所吉東印刷社) 個人經營	六八〇部(大正十五年六月調查)	七〇〇部(大正十五年六月調查)	商務會、工務會より毎月補助金を仰げり

四、東省日報

員	派別	關係	筆者	創立年月	本社所在地	組織	資本額	經營者	地主
四頁	無	關係	劉振東	大正十一年七月	三橋政明	吉林商埠地	二〇,〇〇〇圓	個人經營	吉林商埠地

第二章 滿洲に於ける新聞紙の現勢

四九

所 主 黨 派 經 營 資 本 立 年 月 者 筆 者 關係 軍閥派	職 員 工 場 設 備 數 價 數 備 發 行 部 考 考	工 場 設 備 數 價 數 備 發 行 部 考 考	職 員 工 場 設 備 數 價 數 備 發 行 部 考 考
哈爾賓道外北四道街 張學良機關紙 未詳	八頁 不明 良好	哈爾賓道裡新城大街五道街口 個人經營 不明	四〇〇部(大正十五年六月調查) 松江日報社に於て印刷 不明

一、國 際 協 報

所 主 黨 派 經 營 資 本 立 年 月 者 筆 者 關係 軍閥派	職 員 工 場 設 備 數 價 數 備 發 行 部 考 考	工 場 設 備 數 價 數 備 發 行 部 考 考	職 員 工 場 設 備 數 價 數 備 發 行 部 考 考
民國七年八月 社長 張復生 吳士元	哈爾賓道裡新城大街五道街口 個人經營 不明	排日的傾向あり、最近やゝ緩和	四〇〇部(大正十五年六月調査) 松江日報社に於て印刷 不明

二、哈爾濱

所 主 黨 派 經 營 資 本 立 年 月 者 筆 者 關係 軍閥派	職 員 工 場 設 備 數 價 數 備 發 行 部 考 考	工 場 設 備 數 價 數 備 發 行 部 考 考
九五〇部(大正十五年六月調査)	八頁 不明 良好	

三、松江日報

所 主 黨 派 經 營 資 本 立 年 月 者 筆 者 關係 軍閥派	職 員 工 場 設 備 數 價 數 備 發 行 部 考 考
哈爾賓道外北四道街 張學良機關紙 未詳	八頁 不明 良好

八〇〇部（大正十四年十一月調査）
經營費は哈爾賓糧業取引所から出づとの説あり

主 義 色 彩 數 數 數 數 員 工 工 場 設 備 備 數 價 態 狀 業 行 部 備 發 定 營 職 社 頁
四 百
不 明
不 明
不 明
不 明
不 詳
一箇月
八〇〇
經營費

所 在 地 織 金 月 年 立 創 資 組 主 營 營 者 筆 潘 紹 中 哈爾賓道外十五道街口路南
個人經營
不明
民國十年十二月一日
社長葉元宰

黨派關係	彩色數	員數	社員	職工	工場	狀態	價格數	發行部數	備考
不明	不明	不明	編輯部四名	八頁	排日	主義色彩	頁數	五〇〇部(大正十四年十一月調查)	南洋煙公司主幹照南の出資?

哈爾賓道外北十四道街
在地織組所創立年月金本不
個人經營者不明
民國十一年一月
濱江商會（社長于芳洲）

主黨派關係筆	色彩數數	員工	社會職工營定發備	行業狀態備數價	考行部數	備
張樹	八頁	編輯部六名 不明	一箇月大洋六〇〇部 基督教青年	あるも不明	不	排日、左傾

一箇月大洋八角
六〇〇部（大正十四年十一月調査）
基督教青年會の機關紙たり

100

朱氏會社
略傳

資本額
創立年月
民國六年五月日

三〇〇部（大正十四年十一月調査）
經濟記事多く、政治的色彩は灰色なり

六 漢 江 時 報

所 在 地 哈爾賓道外南頭道街仁義巷
組 織 個人經營
資 本 金 未 詳

卷之三

144

創立年月	經營者	黨派關係	色彩	數	備數	態	價數	部數	發行部
民國九年三月	范介卿	中立	小型四頁	不明	不明	不詳	不	不	定

三〇〇部（大正十四年十一月調査）

七、午報

報

哈爾賓道外南十七道街
個人經營
地織在組所

個人
經

卷之三

資本金未詳

民國十

黨派關係筆記
張佩之

社員數不明
頁數小型四頁

不
明

工場設備
あるも詳細不明

備考部數四、〇〇〇部（大正十四年十一月調査）下層階級向の小型新聞として勢力あり

下層階

八、大北新報

哈爾賓八站

株式會社

民國十一年十月一日

盛京時報社（山本久治）

王作鎬

日本系

中立

小型四頁

不明

あるも不明

良好

備	發	工	營	創	資	所
業	行	職	主	經	組	主
場	部	員	黨	主	資	黨
設	考	工	派	創	組	頁
備	數	數	色	立	本	在
價	數	數	關	營	年	營
數	數	者	係	者	月	者
發	發	筆	彩	筆	金	地
行	行	員	關係	員	數	哈
部	部	工	色彩	工	數	爾
考	考	數	關係	數	數	賓
數	數	備	色彩	備	備	八
發	發	價	關係	價	資	站
行	行	數	色彩	數	組	
部	部	備	關係	備	頁	
考	考	價	色彩	價	本	
數	數	數	關係	數	年	
發	發	備	色彩	備	月	
行	行	價	關係	價	金	
部	部	數	色彩	數	數	
考	考	備	關係	備	備	
數	數	價	色彩	價	資	
發	發	數	關係	數	組	
行	行	備	色彩	備	頁	
部	部	價	關係	價	本	
考	考	數	色彩	數	年	
數	數	備	關係	備	月	
發	發	價	色彩	價	金	
行	行	數	關係	數	數	
部	部	備	色彩	備	備	
考	考	價	關係	價	資	
數	數	數	色彩	數	組	
發	發	備	關係	備	頁	
行	行	價	色彩	價	本	
部	部	數	關係	數	年	
考	考	備	色彩	備	月	
數	數	價	關係	價	金	
發	發	數	色彩	數	數	
行	行	備	關係	備	備	
部	部	價	色彩	價	資	
考	考	數	關係	數	組	
數	數	備	色彩	備	頁	
發	發	價	關係	價	本	
行	行	數	色彩	數	年	
部	部	備	關係	備	月	
考	考	價	色彩	價	金	
數	數	數	關係	數	數	
發	發	備	色彩	備	備	
行	行	價	關係	價	資	
部	部	數	色彩	數	組	
考	考	備	關係	備	頁	
數	數	價	色彩	價	本	
發	發	數	關係	數	年	
行	行	備	色彩	備	月	
部	部	價	關係	價	金	
考	考	數	色彩	數	數	
數	數	備	關係	備	備	
發	發	價	色彩	價	資	
行	行	數	關係	數	組	
部	部	備	色彩	備	頁	
考	考	價	關係	價	本	
數	數	數	色彩	數	年	
發	發	備	關係	備	月	
行	行	價	色彩	價	金	
部	部	數	關係	數	數	
考	考	備	色彩	備	備	
數	數	價	關係	價	資	
發	發	數	色彩	數	組	
行	行	備	關係	備	頁	
部	部	價	色彩	價	本	
考	考	數	關係	數	年	
數	數	備	色彩	備	月	
發	發	價	關係	價	金	
行	行	數	色彩	數	數	
部	部	備	關係	備	備	
考	考	價	色彩	價	資	
數	數	數	關係	數	組	
發	發	備	色彩	備	頁	
行	行	價	關係	價	本	
部	部	數	色彩	數	年	
考	考	備	關係	備	月	
數	數	價	色彩	價	金	
發	發	數	關係	數	數	
行	行	備	色彩	備	備	
部	部	價	關係	價	資	
考	考	數	色彩	數	組	
數	數	備	關係	備	頁	
發	發	價	色彩	價	本	
行	行	數	關係	數	年	
部	部	備	色彩	備	月	
考	考	價	關係	價	金	
數	數	數	色彩	數	數	
發	發	備	關係	備	備	
行	行	價	色彩	價	資	
部	部	數	關係	數	組	
考	考	備	色彩	備	頁	
數	數	價	關係	價	本	
發	發	數	色彩	數	年	
行	行	備	關係	備	月	
部	部	價	色彩	價	金	
考	考	數	關係	數	數	
數	數	備	色彩	備	備	
發	發	價	關係	價	資	
行	行	數	色彩	數	組	
部	部	備	關係	備	頁	
考	考	價	色彩	價	本	
數	數	數	關係	數	年	
發	發	備	色彩	備	月	
行	行	價	關係	價	金	
部	部	數	色彩	數	數	
考	考	備	關係	備	備	
數	數	價	色彩	價	資	
發	發	數	關係	數	組	
行	行	備	色彩	備	頁	
部	部	價	關係	價	本	
考	考	數	色彩	數	年	
數	數	備	關係	備	月	
發	發	價	色彩	價	金	
行	行	數	關係	數	數	
部	部	備	色彩	備	備	
考	考	價	關係	價	資	
數	數	數	色彩	數	組	
發	發	備	關係	備	頁	
行	行	價	色彩	價	本	
部	部	數	關係	數	年	
考	考	備	色彩	備	月	
數	數	價	關係	價	金	
發	發	數	色彩	數	數	
行	行	備	關係	備	備	
部	部	價	色彩	價	資	
考	考	數	關係	數	組	
數	數	備	色彩	備	頁	
發	發	價	關係	價	本	
行	行	數	色彩	數	年	
部	部	備	關係	備	月	
考	考	價	色彩	價	金	
數	數	數	關係	數	數	
發	發	備	色彩	備	備	
行	行	價	關係	價	資	
部	部	數	關係	數	組	
考	考	備	色彩	備	頁	
數	數	價	關係	價	本	
發	發	數	色彩	數	年	
行	行	備	關係	備	月	
部	部	價	色彩	價	金	
考	考	數	關係	數	數	
數	數	備	色彩	備	備	
發	發	價	關係	價	資	
行	行	數	色彩	數	組	
部	部	備	關係	備	頁	
考	考	價	色彩	價	本	
數	數	數	關係	數	年	
發	發	備	色彩	備	月	
行	行	價	關係	價	金	
部	部	數	關係	數	數	
考	考	備	色彩	備	備	
數	數	價	關係	價	資	
發	發	數	色彩	數	組	
行	行	備	關係	備	頁</	

一〇、東北新民報

六〇

所	組	資	創	經	主	黨	職	社	工	業	員	工	場	設	狀	備	價	態	地	織	官	營
本	年	月	金	織	地	本	年	月	金	織	地	本	年	月	金	織	地	本	年	月	金	織

民國十四年九月
東三省民報社
張家齊
哈爾賓道外七道街

備考

發行部數
不明
東三省民報の附錄たり

一一、採風日報

社員	主義	派關	本營	在立	資創	主黨	頁社	工場	業設	員狀	地織											
員	色	關	本	營	立	資	主	場	設	狀	地	織	地	織	地	織	地	織	地	織	地	織

哈爾賓傳家甸南四道街
個人經營

一婦人の主宰せるものと傳ふも氏名不詳

定 濟 行 部 數	價
三八〇 部	(大正十五年七月調査)

二、華北新報

所資本	在地
主營者	個人經營
創立年月	民國十五年五月十五日
社員	不明
場設	哈爾賓中十六道街路西
工場	不明
資本額	韓金樓
主派關係	不明
色彩數	四頁
印製備	無、(印刷所不明)

營業狀態
一箇月七角
三〇〇部(大正十五年七月調査)

第四項 黑龍江省

黒龍江省は東三省のうち、文化的開発最も遅れし邊境に在るを以て、新聞事業發達の見るべきものなく、僅かに省城及び黑河に小新聞の發行を見るのみである。

一、齊齊哈爾

一、龍江益時報

所資本	在地
主經營者	齊齊哈爾省城維新街
創立年月	個人經營
筆數	大正十五年六月十八日
關係	一千元

主 義 色 彩 數 四 頁	員 工 數 八 名	社 職 工 場 設 備 數 平盤一臺	頁 定 發 行 部 考 價 五〇〇部（大正十五年六月調査）	所 資 創 立 年 月 本 金 數 齊齊哈爾省城萬增胡同	經 營 者 魏 毓 蘭 (省長公署員)	黨 派 關 係 筆 者 魏 毓 蘭 黑龍江省機關紙	在 地 織 官 營 不 明 民國五年一月一日
主 義 色 彩 數 四 頁	員 工 數 八 名	社 職 工 場 設 備 數 平盤一臺	頁 定 發 行 部 考 價 五〇〇部（大正十五年六月調査）	所 資 創 立 年 月 本 金 數 齊齊哈爾省城萬增胡同	經 營 者 魏 毓 蘭 (省長公署員)	黨 派 關 係 筆 者 魏 毓 蘭 黑龍江省機關紙	在 地 織 官 營 不 明 民國五年一月一日

三、通俗教育報	頁 社 印 定 發 行 部 考 價 一箇月大洋七角	員 刷 部 數 編輯部三名	社 組 資 創 立 年 月 本 金 數 財政廳印刷所
員 派 關 係 筆 者 數 本 金 數 地 地 織 官 營 不 明 民國三年十二月一日	編輯部四名	四 頁	編輯部三名

齊齊哈爾省城全勝胡同

黑龍江省教育廳（趙善卿）

唐衡古

省教育會機關紙

編輯部四名

印 刷 所	財政廳印刷所
定 價	一箇月小洋五角五分
發 行 部 數	三〇〇部（大正十五年六月調査）

考 教育者間に購読せられ、教育廳よりの補助金にて經營を續けつゝあり

二、黒 河 日 報

所 在 地	黑龍江省黒河
組 合 資	一萬三千元
創 立 年 月	民國九年十月一日
經 營 者	楊潤如（璦琿縣公署員）
主 社	陳鳳山
黨 主 員	道尹機關紙
派 係	多少排日的
義 色	六頁
關 係	三名
派 係	
色 彩	
數 數	
員 數	

職 工	工 場 設 備	營 業 状 態	定 發 備	備 考
一六名	手刷機を使用す（印刷業を兼營す）	稍 良		
			一箇月大洋八角	
			三三〇部（大正十五年六月調査）	

第三節 外字新聞の現勢

滿洲に於ける外字新聞の大多數は、哈爾濱に於て刊行せらるゝ露字新聞である。大連のマンチユリア、デリー、ニュース、哈爾賓のルシアン、デーリー、ニュースを除けば、他は何れも露字新聞である。従つて滿洲に於ける外字新聞と稱するも、その實質に到つては露字新聞と呼稱するも敢へて不當ではない。

哈爾濱に於ける露字新聞の多くは、勞露露西亞の勢力下に在る。ロマノフ帝朝の沒落以來、極東に避難せる露人を購讀者として刊行せられた白系露字紙も、その多くは經營困難に陥つて廢刊の餘儀なきに到つたものが多い。

第一項 大 連

マンチユリア・デーリー・ニュース（英文満報 Manchuria Daily News）

第二章 滿洲に於ける新聞紙の現勢

所	組	資	創	立	年	月	金	地	在
備	發	行	部	考	數	價	備	設	場
備	定	工	職	社	名	頁	黨	主	經
個人經營	不明	大連市淡路町七	明治四十一年十月十八日	日本系	中立	夕刊四頁	編輯人柳澤柳太郎	發行人濱村善吉	印刷人千葉良一郎
義	員	工	數	人	數	彩	關	係	筆
一〇名						色	派	主	者
一箇月金七拾錢						數	派	黨	創
平盤三臺、ライノタイプ二臺						人	關	主	立
一、二一八部（大正十四年十一月調査）						數	係	主	創
月刊“Monthly Supplement”を發行す						價	筆	者	立

第二項 奉天

ムク・デンスキー、ウエストニツク（露文）

所	在	奉天十間房
組	本	在奉白系將校軍事研究團
資	金	
創立年月	一千圓	
立年月	大正十五年八月十五日	
主營者	プレオツスキー（前陸軍大佐）	
經營筆者	プレオツスキー	
黨派關係	白系	
頁數	日刊なるも當分週刊（水曜）	
工場設備	不明	
發行部數	一〇〇部（大正十五年六月調査）	
備考	在奉白系露人の機關紙にして、新聞としての價值少し	

第三項 哈爾濱

水
(露文)

所 在 地
哈爾濱ビルジエワーヤ街四〇
組織
個人經營

第二章 満洲に於ける新聞紙の現状

資創立本年月金者長關係色彩數備態數考部工場業行輯營立年月金

六〇〇部（大正十四年十一月調査）
在哈勞農諸機關より月額一、〇〇〇圓の補助

創立年月 本資金 織地 在所組資創立

一九二四年九月

編經者長關係色彩數數備考部設工場行部發備工職頁主黨派營輯

ニ亦發賣禁止の際の豫備紙たり

地織金月者筆彩色義本年營立所組資創經主主

チャエルニヤフスキーグリオリン共同經營
クリオリーン
赤系、排日

卷之三

第二章 满洲に於ける新聞紙の現勢

七二

頁数	朝刊六頁
工場設備	あり、印刷業を兼營す
定期発行部数	一箇月金壹圓五拾錢

備考
猶太民族復興會と關係あり

四、ルスコエ・スローウオ（露文）

所組資立年月	在本	所組資立年月	在本
職派關係	個人經營	職派關係	個人經營
工色數	哈爾濱ボチトーワーヤ街	工色數	哈爾濱ボチトーワーヤ街
發行部數	一九二〇年	發行部數	一九二〇年
備考	ウオストロチニ	備考	ウオストロチニ

二、五〇〇部（大正十四年十一月調査）

五ザリヤ（露文）

地織者筆者	不明	地織者筆者	不明
地織者筆者	一九二一年	地織者筆者	一九二〇年
地織者筆者	個人經營	地織者筆者	個人經營
地織者筆者	哈爾濱キタイスカヤー街五	地織者筆者	哈爾濱ボチトーワーヤ街
地織者筆者	レンビツチ	地織者筆者	ウオストロチニ
地織者筆者	シブコフ	地織者筆者	ウオストロチニ
地織者筆者	編輯長コブツオフ	地織者筆者	編輯長コロボフ
地織者筆者	不明	地織者筆者	不明
地織者筆者	中立	地織者筆者	中立
地織者筆者	中立	地織者筆者	中立
地織者筆者	中立	地織者筆者	中立
地織者筆者	中立	地織者筆者	中立
地織者筆者	不明	地織者筆者	不明
地織者筆者	不明	地織者筆者	不明
地織者筆者	良好なり	地織者筆者	良好なり

七、五〇〇部（大正十四年十一月調査）

第二章

滿洲に於ける新聞紙の現勢

七三

哈爾濱に於ける最も勢力ある露字紙なり

セルシアン・テレリイ・ニルス(英訳 Kussian Daily News)

第四項 滿洲里

満洲里は露支國境に位する國際的重要な地點ではあるが、文化的諸施設は多く勞農側に於て爲され、自國の領土内で

はあるが支那側の勢力見るべきものがない。新聞界の事象亦然りである。

ジヴォエ、スローヴオ（露文）

備考	行部	工作場	員數	派關係	筆者	金額	所在地
四五〇部（大正十五年六月調査） 現經營者はソヴェツト聯邦滿洲里市長たり	不明	赤露系	四名	ペーカー・スマルノフ ウエニアミン・サビヨールキン	大正十二年月	不明	満洲里 個人經營

第三章 满洲に於ける通信社の現勢

通信社存在の機能の一は、其地に於て刊行せらるゝ新聞紙に對する材料の供給であり、其の二は當該地方の情勢を他地方へ報道するに在る。従つて通信社の發達は、特異の例外を除きては必然的に新聞紙の發達に伴つて來つた。満洲に於ける通信の現勢を窺ふに、亦この規範に洩れず、新聞事業の發達著しき大連、奉天及び哈爾濱の三地に於てその發生を見た。爾餘の小都市に於ても、市況相場の報道のみを取扱ふ商業通信の發行を見るに到つたが、本稿には之を除外した。

満洲に於ける通信社の現勢を數的に擧示すれば次の如くで、邦字通信最も多數を占めてゐる。這は一面その各國に於ける新聞事業の發達程度を物語る顯著なる事象であらう。

計	露字通信用	漢字通信用	邦字通信用	大連	奉天	哈爾濱	計
四一四				四			
				七一六			
					八一四三		
						一三五	一九一

第一節 大連

第三章 满洲に於ける通信社の現勢

七七

第三章 满洲に於ける通信社の現勢

七八

大連に在る通信社は盡く日本人經營に成る邦字通信である。その多くは同地に於て刊行せらるゝ新聞紙に對して、日本内地の情勢を通報するもので、漢字新聞も亦是等通信を利用して日本に關する記事を譯載してゐる。

一、日本電報通信

所 在 地	本 社 所在 地	創 立 局	編 輯 長	資 本 金	組 織 者	創 立 局	本 社 所在 地	發 行 部 數	黨 派 主 義	關 係 色 彩	編 輯 長	資 本 金	組 織 者	創 立 局	本 社 所在 地	發 行 部 數	黨 派 主 義	關 係 色 彩	
大連市大山通	東京	内海安吉	津上善七	大連市佐渡町一八	個人經營	大連市佐渡町一八	東京	八〇部	無	無	津上善七	大正九年八月	不明	津上善七	大連市浪速町一ノ五	東京	三〇〇部	無	無

二、日満通信

大連市大山通	東京	内海安吉	津上善七	大正九年八月
--------	----	------	------	--------

大連市佐渡町一八
個人經營

所 在 地	本 社 所在 地	創 立 局	編 輯 長	資 本 金	組 織 者	創 立 局	本 社 所在 地	發 行 部 數	黨 派 主 義	關 係 色 彩	編 輯 長	資 本 金	組 織 者	創 立 局	本 社 所在 地	發 行 部 數	黨 派 主 義	關 係 色 彩	
大連市紀伊町	東京	大正十三年五月二十四日	津上善七	大連市浪速町一ノ五	個人經營	大連市佐渡町一八	東京	三〇〇部	無	無	津上善七	大正九年八月	不明	津上善七	大連市浪速町一ノ五	東京	三五〇部	無	無

四、日本新聞聯合

所 在 地	大連市紀伊町
本 社 所在 地	東京
創 立 局	大正十五年五月一日

七九

支局長	川島信太郎
黨派關係	無
主義色彩	無
發行部數	四〇〇部
其他	東京日日、東京朝日、東京時事、報知、國民、中外商業、大阪朝日、大阪毎日、國際及び 東方の各社聯合通信社である

第一節 奉天

奉天に在る通信社も亦、多くは日本人經營に成る邦字通信である。

最近に於ける東三省當局の言論機關に對する壓迫は極めて過酷となり、上海に本社を有する國聞通信、北京に本社を有する神州通信の如き、支那通信社界の重要な二三通信社は、何れもその壓迫に脅威せられて支社を退去せしめ現在では支那側通信は僅かに東三省當局の宣傳機關たる「奉天無線電通信」のみである。

一、満洲通信

創立者	資本金	所在地	組織	所在地
武内忠治郎	不明	奉天信濃町二三	個人經營	

刊行日 大正三年八月三十一日

二、奉天電報通信	所在	所	黨派關係	發行部數
奉天浪速通三六 個人經營 參千圓	奉天浪速通三六 個人經營	奉天浪速通三六 個人經營	無	三〇〇部

編輯者
渡邊義一
大正十一年六月十四日

發行部
伊藤一水
神山哲三
二〇〇部

三、日本電報通信

創立局長	本社所在地	本社所在地	黨派關係
奉天淀町八 東京 大正十四年三月十八日	奉天浪速通三六 個人經營	奉天浪速通三六 個人經營	無

編輯者
伊藤一水
神山哲三
二〇〇部

第三章 滿洲に於ける通信社の現勢

八二

四、東方通信	發行部數
	一〇〇部

五、帝國通信	發行部數
奉天小西邊門外第一區 東京 大正十年二月 荒基 外務省宣傳機關	一〇〇部

所 在 地	本社所在地	創立年月	局長	發行部數
奉天浪速通三六 東京 大正十四年五月 渡邊義一 憲政會系				

六、日本新聞聯合通信

所 在 地	本社所在地	創立年月	局長	發行部數
奉天琴平町一六 東京 大正十五年六月十七日 櫻井重義	奉天琴平町一六 東京 大正十五年六月十七日 櫻井重義			五〇部

七、奉天無線電通信

所 在 地	本社所在地	創立年月	局長	發行部數
奉天省城内 官營	奉天琴平町一六 東京 大正十五年六月十七日 櫻井重義			五〇部

第三章 滿洲に於ける通信社の現勢

八三

第三節 哈爾濱

哈爾濱に於ける通信社のうち、注目すべきは勞農側の機關通信なる『タツス通信』である。勞農露西亞は最近頻りと極東經略の歩を進め、その本據たる哈爾濱を中心に赤化の魔手を動かしつゝある。『タツス通信』は實にその中核をなすもので、歐露より來れる諸情報は多く同通信の名に於て公表せられてゐる。近時同地に於ける支那側通信の活躍も亦、支那新聞の發展振りと共に注目すべき現象のひとつである。

一、東方通信

二、帝國通信	所 在 地	本社所在地	創立年月	支社長	編輯長	支社長	編輯長	本社所在地	創立年月	支社長	編輯長	本社所在地	創立年月	支社長	編輯長
	哈爾濱南崗郵政街一一	東京	大正十年六月一日	廣岡光治	三田雅各	邦文一〇〇部、漢文五〇部、露文五〇部	無	哈爾濱埠頭區透籠街一四	東京	大正十四年九月	細谷清	哈爾濱埠頭區透籠街五	五〇部	不詳	社長杉浦龍吉
	東京	東京													

三、北満通信	所 在 地	本社所在地	創立年月	支社長	編輯長	支社長	編輯長	本社所在地	創立年月	支社長	編輯長	本社所在地	創立年月	支社長	編輯長
	哈爾濱埠頭區透籠街二〇	不明	大正十一年十一月	古谷一	不詳	社長杉浦龍吉	大正十四年九月	哈爾濱埠頭區透籠街五	五〇部	五〇部	五〇部	五〇部	五〇部	五〇部	五〇部
	哈爾濱埠頭區透籠街二〇	不明													

八、タツス通信

所 在 地	哈爾濱南崗
本 社 所 在 地	莫斯科
創 刊	大正十四年八月一日
編 輯 長	ドレツキー
黨 派 關 係	勞農機關紙
發 行 部 數	不明
其 他	勞農總領事館接受の情報通牒機關たり

第四章 新聞、通信社の特派、通信員

新聞社及び通信社の検討と共に、その各地に派せる特派員或は通信員の調査も忽諸に附するを得ない。以下記するところは満洲各主要都市に駐在せる特派員、通信員で、その本社を満洲以外に有するものをも包含せしめた、これは單に満洲に於ける諸問題に對して謂はるゝ特電の出所を明確ならしめんとするメモラムダムに過ぎない。

唯、最近に於ける奉天派當局の言論機關に對する抑壓頗る厳しく、上海、天津に本社を有する支那側の新聞、通信社の特派員は、何れもその居所、姓名の公表を極度に危惧しつゝあるを以て、之を明にし得ざるを遺憾とする。

第一節 關 東 州

一、大連

本 名 稱	社 所 在 地	事 務 所	通 信 員 氏 名	備 考
大阪朝日新聞	大阪	霧島町五	武内秋元隆一	
大阪毎日新聞	大阪北	大山通一二	藤野村新誠	
			岡啓幸一	同同特派員
				同同特派員

二、旅順

名	本 社	稱	所在 地	事 務	所 通	信 員	氏 名	備 考
遼 東 新 報	滿 洲 日 日 新 聞		大 連					
鯖 江	八 島		町					
町	一							
中 近	河 河							
井 新	藤 基	合 合						
太 郎	喜 郎	乙 彥						
同 同	同 特							
			派 員					

三
金
州

遼	滿	名	本
東	洲	洲	本
新	日	日	本
報	新	聞	本
大	報	稱	稱
連	大	所	在
	連	在	地
		地	地
事	新	事	務
務	市	務	務
所	街	所	通
通	奧	信	信
信	町	員	員
員	鳴	氏	氏
氏	瀨	名	名
名	井	輔	備
輔	親		
	輔		考
備			
考			

四 普 蘭 店

五、貔子窩

遼東新報	本社所在地	事務所	通信員氏名	備考
大連	大連	事務所	田仲代三郎	

第二節 奉天省

一、瓦房店

滿洲日日新聞	本社所在地	事務所	通信員氏名	備考
大連	大連	事務所	王仲代三郎	

二、熊岳城

泰東連新報	本社所在地	事務所	通信員氏名	備考
大連	大連	事務所	李前松	

三、大石橋

遼東連新報	本社所在地	事務所	通信員氏名	備考
大連	大連	事務所	谷本謙太	

四、鞍山

滿洲日日新聞	本社所在地	事務所	通信員氏名	備考
大連	大連	事務所	加藤萬三	

五
道
陽

遼	滿洲日日新聞報	本名稱
東	大連	所在地
新	侈家街一〇	事務所
報	渡猿渡源次郎藏	通信員氏姓名備考
大		
連		
侈		
家		
街		
一		
〇		
渡		
猿		
渡		
邊		
源		
次		
郎		
藏		

六、奉
天

社事

卷之三

九、四平街

一〇、公主嶺

東關
三省公報
奉天連
才玉
傑壽
三五

關 二
長 東
日 報
報 大
吉 連
林 河
河 南
南 商
大 務
街 會
西 胡
首 同
劉 蔡
國 佐
棟 廷

卷之三

100

名	稱	所在	事	務	所	通	信	員	氏	名	備
奉天毎日新聞	満洲日日新聞	大連新開	大連	永利町	二野村一郎	伊藤森三郎	熊唯	地	山屬	石天連附	奉天
奉天	大連	大連	大連	利町	二野村一郎	伊藤森三郎	熊唯	地	山屬	石天連附	奉天
奉天	大連	大連	大連	利町	二野村一郎	伊藤森三郎	熊唯	地	山屬	石天連附	奉天
奉天	大連	大連	大連	利町	二野村一郎	伊藤森三郎	熊唯	地	山屬	石天連附	奉天

三集

名	本	稱	所	事	務	所	通	信	員	氏	名	備
在	社	地	在	事	務	在	通	信	員	氏	名	考
奉東大奉朝京關遼滿洲	日	日	新	報	聞	聞	報	聞	報	新聞	名	本
天方阪天每鮮城東連	日	新	新	報	聞	報	聞	報	新聞	新聞	稱	在
新通日新新信聞聞聞	日	新	新	報	聞	報	聞	報	新聞	新聞	名	在
奉東大奉京京大連	大	連	連	連	連	連	連	連	連	連	連	社
天京阪天城城大連	大	連	連	連	連	連	連	連	連	連	連	在
市同同五番通七ノ一	五	番	通	二	五	番	通	三	大和橋通七ノ二	事	務	在
場通同五番通八ノ二	番	通	二	八	番	通	四	ノ	大和橋通七ノ二	事	務	在
通三ノ一	通	三	ノ	八	通	八	ノ	三	大和橋通七ノ二	事	務	在
一	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	四	大和橋通七ノ二	事	務	在
綿同同吉森川王堀佐草葉藤彌太郎特派員	同	同	吉	森	川	王	堀	佐	草葉藤彌太郎	通	信	員
貫秀成永和佐清宗逸三	成	永	和	佐	清	宗	逸	三	通	信	員	名
藏一作夫溪深逸三	一	作	夫	溪	深	逸	三	特	派	員	備	考

一四、安東

第四章 新聞、通信社の特派・通信員

奉天新開奉天永利

町町
花岡酒造智
松廣馬智

一〇三

一六、洮南

名	本
泰東東東東	邊京三省民
報報報報報	時時時公
大奉奉奉奉	安上奉
連天天天天	東海天
清官官官官	富富官
真署署署署	文文署
東後後後胡	富北後
胡胡胡同同同	東東胡
劉劉劉劉劉	街街同同同
國貞貞秀貞	趙趙劉段
氏名備考	蔭蔭貞
一忱一忱	南南

第二節 吉林省

滿洲日日新聞	名稱	本社事務所通訊員姓名備考
——大連——	所在地	
——中——		
——央——		
——通——		
——一——		
——一——		
——得丸助太郎特派員	氏名	

日	福	京	哈	松	奉	京	大	時	滿	大	遼
滿	岡	爾	爾	江	天	城	阪	阪	洲	連	東
通	城	濱	濱	新	每	日	朝	日	事	新	新
信	日	日	新	新	日	日	日	新	報	報	報
聞	新	聞	聞	聞	新	新	新	聞	聞	報	報
聞	報	聞	聞	聞	聞	聞	聞	聞	聞	報	報
大	福	京	哈	吉	奉	京	大	東	營	大	大
連	岡	爾	爾	林	天	城	阪	阪	京	口	連
吉	曙	三	日	日	大	三	東	三	笠	日	東
野	町	笠	本	本	和	笠	中	三	町	本	三
町	二	町	橋	橋	通	町	央	條	通	橋	條
二	ノ	三	通	通	三	三	通	一	通	六	四
二	二	一	一	一	九	一〇	四	四	○	四	四
二	六	六	七	六	二	二	四	四	○	高	柏
箱	末	原	加	橋	宇	上	池	得	稻	杉	柏
田	松	田	藤	本	野	野	田	丸	原	垣	原
琢	正	種	金	與	常	由	盤	助	浦	橋	勝
磨	實	壽	保	郎	吉	人	根	太	兵	義	孝
寶	壽	保	郎	吉	人	根	郎	久	治	一	藏
一	久	治	一	久	治	一	久	治	久	藏	久

二、吉
林

三 哈 爾 濱

第四節 黑龍江省

一、齊齊哈爾

松	申	益	東	國	泰	關	新	滿	
江	際	京	三	三	東	洲			
世	省	省	時	申	東	日			
日	協	時	民	公					
報	報	報	報	報	報	報	報	報	報
齊	上	天	大	奉	奉	奉	上	大	大
齊	海	津	連	天	天	海	連	連	連
哈	爾	濱	濱	天	天	天	海	連	連
爾									

同 南 萬 嫩 同 財 省 禮 永
江 祿 神 城 合 安
門 春 廟 胡 胡
胡 胡
外 同 同 街 站 同 里
梁 同 崔 王 高 同 同 孫 宮 毛 龍 韓 安
曉 聘 福 聖 官 保 官 緽 香
山 卿 臣 祥 之 陞 臣 陞 如 丸
相 當 勢 力 有 里

新	聞	報	事	務	所
二、黑	河		張	克	亭

黑	新	益	泰	盛	東	申	東	本	名
龍	東	京	三	三	省	省	時	社	稱
聞	聞	省	省	民	公				
江	日	時	民	公					
報	報	報	報	報	報	報	報		
齊	上	天	大	奉	奉	奉	上	大	大
齊	海	津	連	天	天	海	連	連	連
哈	爾	濱	濱	天	天	天	海	連	連
爾									

金 趙 趙 張 張 趙 丁 丁
寶 荣 荣 希 希 荣 孝 孝
琦 光 光 齊 齊 光 廷 廷

三、滿洲里

本 社 名 稱	事 務 所	通 信 員 氏 名	備 考
ザ ルス キ ー ・ ゴ ロ ス ヤ 哈 爾 濱	ア キ ク サ ン ド ル ・ ト ロ ツ ミ ハ イ ル ・ ウ オ フ チ コ フ	キ 一	
所在 地			

大正十五年十一月十一日印刷
大正十五年十一月十五日發行

南滿洲鐵道株式會社庶務部調查課

編輯人兼 佐 田 弘 治 郎

大連市大山通六十三番地

印刷人 太 田 信 三

大連市大山通六十三番地

印刷所 小 林 又 七 支 店

發行所 南滿洲鐵道株式會社

終